

SiteScanで3Dモデルを作成するための UAV撮影時の注意事項

概況把握のための3Dモデルを作成する場合（≠測量）

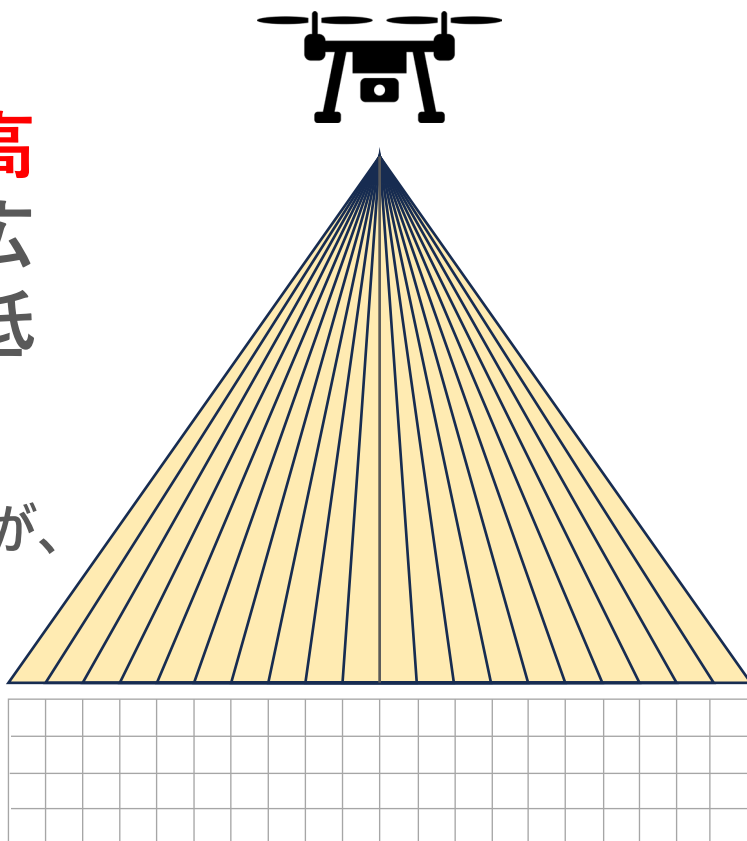
2024.4

飛行高度と解像度

- 飛行高度により、撮影範囲や解像度が異なります。
- 目的に応じて飛行高度を設定してください。

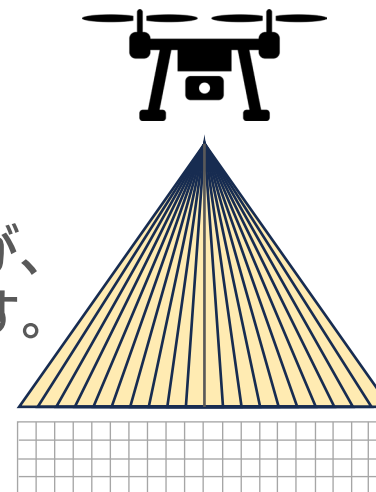
飛行高度：高
撮影範囲：広
解像度：低

※広域を撮影できますが、
画像は粗くなります。



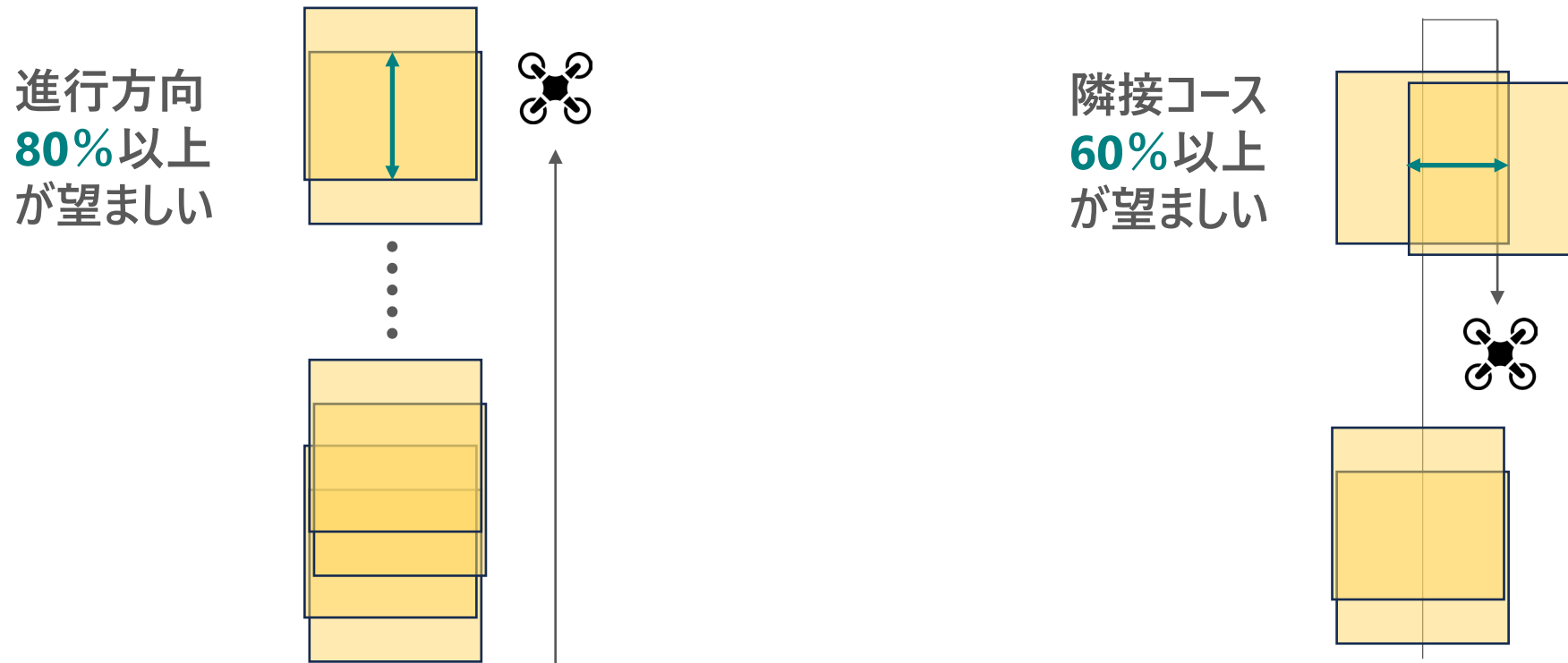
飛行高度：低
撮影範囲：狭
解像度：高

※詳細に撮影できますが、
飛行ルートは長くなります。



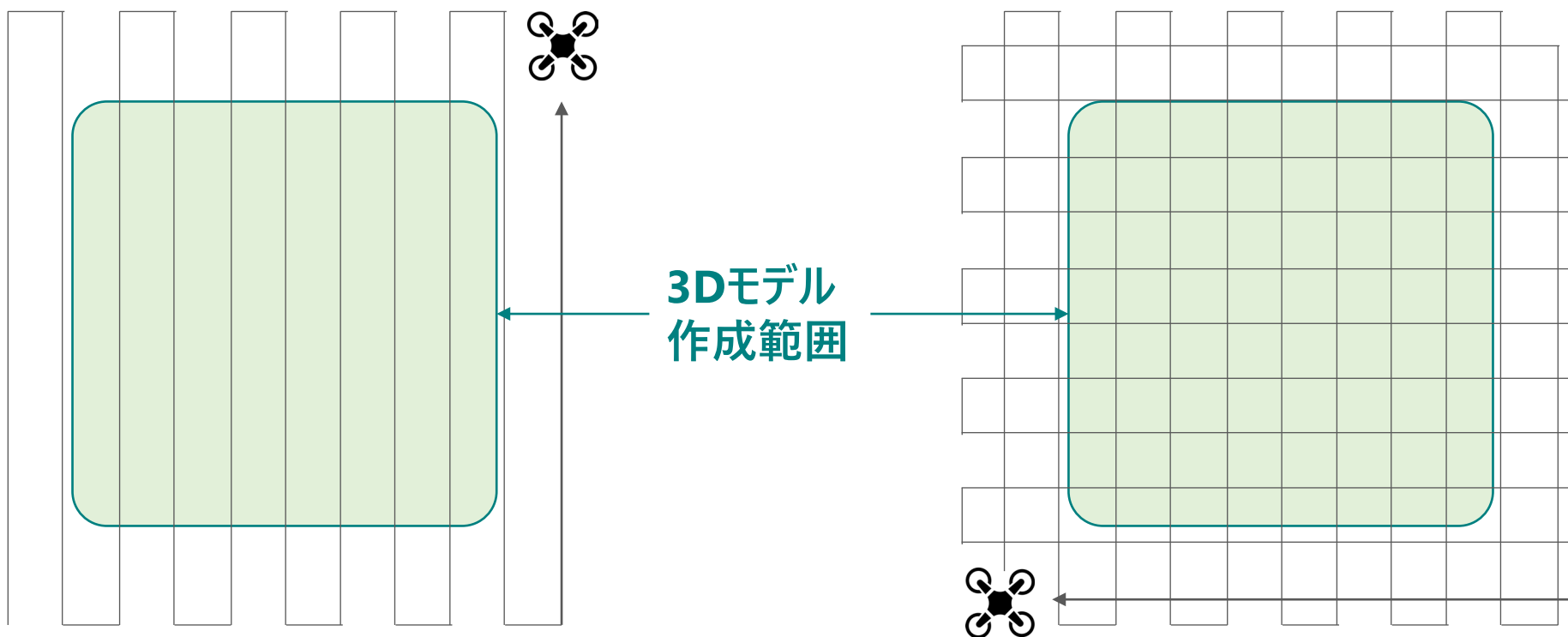
オーバーラップ

- 進行方向、隣のコースともオーバーラップ（重複）が必要です。
- 重複率が高い方が、より正確な3Dモデルが作成できます。



飛行ルート of 例

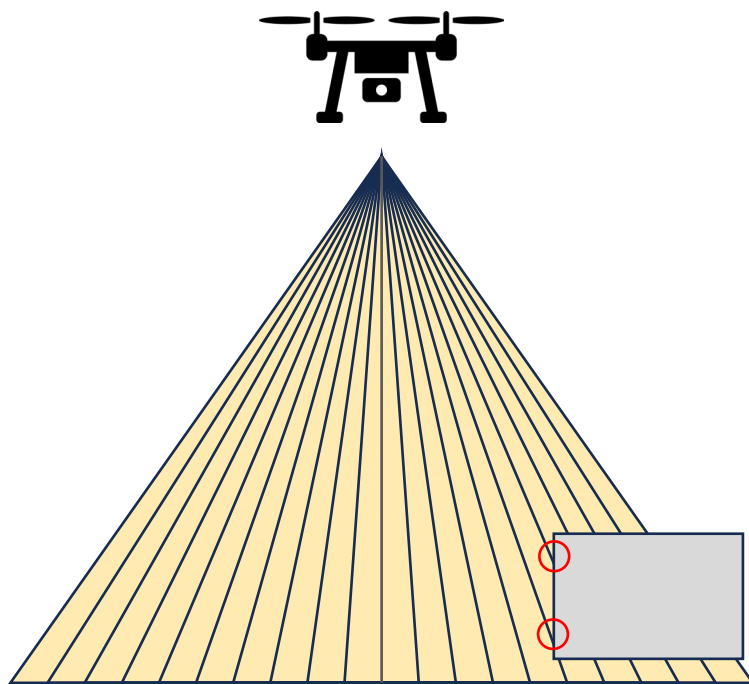
- サーベイ：通常はこの方法
- クロスハッチ：起伏が大きい場合など



※3Dモデル作成範囲の外にも撮影コースを設定する

高空・低空の組み合わせ

- 地物の**斜面**や**側面**を3Dモデル化したい場合は、高空だけでなく低空でも撮影



※広域を高空から、局所的に低空で撮影するのを**組み合わせる**のもOK

